

## 2025 年度 応用地形判読士資格検定試験（通算第 13 回）

### 《学科試験-3 の解答と補足説明》

問 26. 湿潤性の粘土鉱物を多く含む砂岩や頁岩が、吸水と乾燥を繰り返すことで細片化する現象の名称
スレーキング：「乾燥湿潤作用」「乾湿風化作用」などの解答がありましたが、設問は「岩石が細片化する現象の名称」とあり、作用の結果の現象を問いていることに注意してください。
問 27. 海食崖の基部に発達する、露岩からなる平滑な地形。一般に潮間帯付近に形成され、ほぼ水平かわずかに海側に傾き、その沖合末端には小崖が存在する。
波食棚（はしょくだな）：「ベンチ」はほとんど使われなくなった用語ですが正解に含めました。「海食台」や「波食台」は混同しやすい用語ですので注意してください。
問 28. 応力場の変化などにより断層の運動方向がこれまでとは反対の方向に変化し、新たな地質構造を形成すること。
反転テクトニクス（はんでんてくとにくす）：「インバージョン・テクトニクス」を含め正解、「逆転応力場」や「逆応力場」の解答が数名あった他は正答から大きく異なる解答でした。
問 29. 陸地と陸地に近い沖合の島との間が砂や礫によって陸続きになった細い堆積地形。
陸繋砂州（りくけいさす）トンボロ：「陸けい砂州」は正解としました。誤答には「砂州」、「陸繋島」「砂嘴」などがありました。
問 30. 数値で表現された年代を直接求める方法の総称。
絶対年代測定法（ぜったいねんだいそくていほう）：正解者は「絶対年代測定手法」を含めて少数でした、「絶対年代測定」「絶対年代法」は準正解としました。設問は「方法の総称」ですから「放射年代測定法」や「炭素 14 測定法」は誤答になります。